

平成 30 年度第 1 回日進市障害者自立支援協議会議事要旨

日 時 平成 30 年 7 月 2 日（月）午前 10 時～午後 0 時 20 分
 場 所 日進市中央福祉センター2 階多機能室
 出席委員 平澤恵美、林和子、幸村朋子、浅井里美、木俣恵子、加藤利秋
 澤田征治、河端祐子、田中美保乃、松島弘治、箕浦伸一、野澤宏之、
 西川恵子、山本かおり、井上亘、梶浦慶子、巾和志、森本光、
 川村享子、保竹さやか（敬称略）
 欠席委員 興柁精視、蛭牟田弘樹、横山慎吾（敬称略）
 アドバイザー 川上雅也（尾張東部圏域アドバイザー）
 事務局 小塚多佳子（健康福祉部参事）、川本賀津三（次長兼地域福祉課長）、
 天野典幸（同主査）、杉田武史（介護福祉課長）、川邊雅巳（同課長補
 佐）、稲葉亮（同係長）、信貴朋子（こども課主査）、小林正信（障害者
 福祉センター施設長）、梅村英子（障害者相談支援センター長）、西岡
 きくの（相談支援専門員）、山田紀子（同）、橋本花実（相談員）

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有 1 名

議事事項等

- 1 あいさつ
- 2 委員委嘱及び委員紹介
- 3 会長・副会長の選出
- 4 日進市障害者自立支援協議会について
- 5 日進市の障害福祉の状況について
- 6 尾張東部圏域の状況報告について
- 7 議 事
 - (1) 平成 29 年度障害者福祉センター事業実績について
 - (2) 平成 30 年度障害者福祉センター事業計画について
 - (3) 日進市障害者自立支援協議会専門部会活動報告・今後の取組みについて
 - (4) 第 4 期日進市障害福祉計画の評価（平成 29 年度実績）について
- 8 その他

| 発言者 | 内 容 |
|-----|--|
| | 1 開会（あいさつ） 2 委員委嘱及び委員紹介 3 会長・副会長の選出 4 資料確認 5 傍聴の有無の確認（申し出有り） |
| 会 長 | 次第に沿って進行 |

| | |
|---------------|---|
| | 4日進市障害者自立支援協議会について説明を求める。 |
| 事務局 (センター) | <p>委員改選後の初回会議となりますので、協議会の体制と役割について説明します。</p> <p>協議会は、障害者総合支援法により設置され、役割は、地域課題を検討する4つの専門部会からの活動報告等を受け、具体的な方策を検討すること、市が策定する障害福祉計画に対する評価等を行うこと、関係機関のネットワーク構築等となります。また、障害者基本法により設置される、日進市障害者政策委員会に経過報告を行うなど、障害者施策の推進に努めていく体制となっています。</p> <p>委員のみなさんには、障害のある方の地域生活を支援する体制づくりにつながるよう、課題について情報共有するとともに、市の実情に応じた支援体制の整備について、さまざまな方面からのご意見をお願いします。</p> |
| 会長 | 5日進市の障害福祉の状況について説明を求める。 |
| 事務局 (介護福祉) | <p>障害のある人が社会における対等な構成員として人権が尊重され、自己選択と自己決定のもとにあらゆる活動に参加・参画できる社会の実現を目指しています。障害者自立支援法（現障害者総合支援法）の施行に伴い、自治体の実情に応じて事業を検討することができる地域生活支援事業等の取り組みが可能となりました。</p> <p>この状況を踏まえ、日進市障害者基本計画や日進市障害福祉計画を策定し、障害福祉サービスの提供体制の確保や業務の円滑な実施に必要な支援を進めています。</p> <p>障害者の増加状況については、市の人口の増加率よりも高く、身体障害で50代以上の方が増加しており、精神障害は30代から40代の方の割合が高い状況となっています。</p> |
| 会長 | 6アドバイザーより国や県、圏域の動向について情報提供を求める。 |
| アドバイザー | <p>まず、今回の障害福祉サービスの報酬改定に伴い、創設された新規事業がありますので、市町村の自立支援協議会、専門部会等で検討していただきたいと考えています。</p> <p>次に、愛知県では「自立支援協議会」「地域生活移行推進部会」「アドバイザー運営会議」、瀬戸保健所では「地域移行部会」が開催されています。また、尾張東部圏域では「相談センターネットワーク会議」が6月に開催され、専門職同士の有意義な意見交換が行われました。次回は秋頃に開催予定となっています。</p> <p>○医療的ケア児支援事業 新生児集中治療室等の発展によって、医療的ケアの対応が必要な障</p> |

害児が増えていますが、それに対して取り組みが進んでいないことから、国の重点項目に挙げられ、県、市町村、圏域単位で自立支援協議会などを活用し、協議の場を設置するよう進められています。

愛知県では、市町村で原則1名コーディネーターを推薦し、10月から11月に4日間の養成研修を実施し、その方々を中心に事業を進めていくことを考えています。また、愛知県障害者自立支援協議会の新たな専門部会として、医療的ケア児支援部会が設置されました。

○「精神障害者の地域生活移行の推進」取り組み

尾張東部圏域では、瀬戸保健所を事務局に地域移行部会を設置しており、先週の全体会では今年度の取り組みの確認などを行いました。

愛知県では、ピアサポーターを活用した地域移行支援の研修会を開催し、昨年度は15か所の病院で、入院患者223名、入院関係者94名の計317名に関わっていただいています。

地域移行の体制整備については、愛知県の福祉相談センターを中心に進めており、平成27年度から29年度の全体で140名が地域移行し、内訳は男性89名、女性51名、年齢では50歳以上が61%となっています。県内では、人口の多い名古屋市が52名と一番多く、尾張東部圏域は9名に増えました。

○「地域生活支援拠点」の整備について

国と愛知県の重点項目となっており、親の高齢化や親亡き後を見据えた居住支援機能として、相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくりという5項目を整備し、安心して本人が選んだ地域でずっと暮らし続けるための体制を構築することとなっています。

国では、第4期障害福祉計画期間で整備予定でしたが、第5期に延長され、愛知県では54市町村のうち、今年の3月末現在で名古屋市を除く15市町が整備済みで、全国では4%程度の整備状況となっています。日進市は整備済みで県に報告されていますが、整備で終わりではなく、体制も変わってくるので、本協議会や専門部会等で内容等を検証しながら進めていってほしいと考えています。

○入所施設からの地域移行について

愛知県の自立支援協議会地域生活移行推進部会を中心に取り組みを進めており、福祉協会役員との意見交換を昨年11月14日に、1月19日には入所施設の施設長との意見交換会を実施しました。

| | |
|-----|---|
| | <p>愛知県では、2年前に無記名アンケートを実施し、その結果を受け、177名の地域移行を目標に計画を立てていますが、先月、具体的な協議を行いました。なお、無記名アンケートであったため、対象者が分からず、また、2年前より人数が増えている可能性もあるため、今回は記名式にして、県と部会メンバーでの移行希望者の訪問を提案しましたが、支給決定した市町村で訪問してほしいとの意見がありました。</p> <p>○愛知県グループホーム整備促進支援事業制度</p> <p>地域の大きな社会資源であるグループホームですが、愛知県は定員の人口比率が全国で下から2番目となっており、重点課題として取り組んできました。</p> <p>地域移行部会としても、ニーズに応えながら事業者向け説明会、グループホーム見学会、相談会、モニタリング等実施してきましたが、建築関係者の参加が多く、業者説明会になっていないかが課題となっています。また、グループホームの数は増えていますが、質の担保に取り組むことが必要となっています。</p> <p>○成年後見制度の利用の促進に向けた体制整備のための「尾張東部圏域成年後見制度利用促進計画策定委員会」が発足</p> <p>従来の禁治産制度が後見制度となり、社会的判断能力弱者の方を支える手段になっていますが、十分に活用されていないという通知が国から出され、尾張東部圏域で制度の利用促進の検討が始まりました。</p> <p>○その他</p> <p>市町村で開催する進路説明会や事業所見学バスツアーは、有意義なものになってきていると感じています。</p> <p>市町村での講演会情報は、相談支援センターを中心に配信しています。最近の話題では、平成31年度に東郷町で社会福祉法人東郷ひなたが、生活介護と放課後等デイサービスを、また、今年9月に長久手市でNPO法人百千鳥が、グループホームと生活介護を新たに開所する予定となっています。</p> <p>また、長久手市では介護職員初任者研修等を受講し修了した後、同市内の介護保険事業所または障害サービス事業所に就職し6か月以上勤務した方への研修受講費の助成を今年度より行っています。</p> |
| 会 長 | 質疑・意見を求める。 |
| 委 員 | 地域生活支援拠点の整備について、日進市は整備済みという説明だったが、整備や専門的人材の確保・養成はどのように行ったのか。 |

| | |
|---------------|--|
| アドバイザー | 日進市基幹相談支援センターでは、関係事業所や機関に向けた研修会、勉強会などを開催し、人材育成や福祉サービス等の情報の共有が行われています。 |
| 委員 | 整備の具体的な目的について抽象的な感じがしましたが、安心感を担保する事業とはどういうことでしょうか。 |
| アドバイザー | <p>安心感を担保する機能としては、体験機会の提供や緊急時の受け入れ対応について、日進市では数年前から整備し、利用もあるとのことですが、今後も安心して地域で暮らし続けていくための機能を叶えていくためにも、専門部会や本会議等で皆様の意見を聞きながら、制度の見直しも必要ではないかと考えています。</p> <p>登録された事業所を体験や緊急時で利用した場合は、事業所に対して助成金を払うのが日進市の制度であり、他の市町村にはない制度なので、これが担保されて拠点ができたことは、他の市町村に比べて優位だと考えています。</p> <p>整備済みの報告内容を見ましたが、中には記入のない項目がある市町村もあり、この場合も整備済みとなるのか愛知県に確認したところ、市町村の判断だということでした。</p> <p>障害のある当事者、保護者、関係者の感じ方もあるので、意見を出していただき、それによって日進市の拠点がよりよいものになっていくと思っています。</p> |
| 委員 | 障害福祉の状況で説明がありましたが、精神障害の方が非常に増えている点について、理由とその傾向を教えてください。 |
| 事務局 (介護福祉) | 40～50代の方が増えてきていますが、うつ傾向の方が多くなっています。また、それほど伸びはありませんが、高齢の方では認知症状を伴う方がここ数年増えています。 |
| 委員 | 今年度は障害基本計画の策定がありますが、本協議会はどのような関わりを持っていくのでしょうか。 |
| 事務局 (地域福祉) | 本協議会では、障害福祉計画の検討と事業の実施内容の精査を行い、障害者基本計画については障害者政策委員会で内容の検討と事業内容の精査を行っていきませんが、それぞれの進捗状況や計画内容について、情報を共有するという形で、意見も伺っていきたいと考えています。 |
| 委員 | 日進市での地域生活支援拠点整備について、知らない人も多いと思います。まず、本協議会で、どのような中身になっているのか、資料の提示をお願いします。 |
| 事務局 (地域福祉) | 同事業については、ケアマネ部会において拠点がどのように動いているか機能の確認を行っています。また、個別課題からどのように機能強化していくかを協議しながら、本協議会で報告する予定です。 |

| | |
|---------------|--|
| 委員 | この仕組みがあることを当事者が知るためには、まず私たち委員が把握する必要があると思いますので、本協議会で資料として出していないか。 |
| 事務局 (地域福祉) | 地域生活支援拠点等の整備については、第4期障害福祉計画から目標として掲げています。面的整備として基幹相談支援センターで総合的な相談を行い、緊急時の受け入れ対応は通常のショートステイとは別に居室確保事業を行っており、同事業で体験機会の提供も行っています。また、専門的な人材確保については、障害者相談支援センターに人材育成の機能を持たせており、確保・養成を行っており、地域の体制づくりの面では、地域包括ケアシステムの構築を目指した地域全体の体制づくりを進めています。このように個々の事業を行うことで地域生活支援拠点ができ上がっていくという形ですが、資料を作成しお示ししたいと思います。 |
| 会長 | 地域生活支援拠点の整備については、次回の本協議会において、具体的な資料を示してください。 |
| 会長 | 7議事(1)平成29年度障害者福祉センター事業実績について (2)平成30年度障害者福祉センター事業計画について説明を求める。 |
| 事務局 (センター) | 平成29年度実績として、個別支援会議、障害者自立支援協議会、自立支援協議会専門部会、基幹相談支援センター事業、人材育成事業、情報発信事業、児童発達支援事業についての主な実績を説明。 平成30年度事業計画についての主な内容を説明。 |
| 会長 | 質疑・意見を求める。 |
| 委員 | センターの利用団体数がとても多く感じるが具体的な団体は。 |
| 事務局 (センター) | センターは、地域の団体にも開放しているため、竹の山自治会や各種障害に関わる団体、すくすく園卒園児の保護者の交流の場としても利用されています。また、利用団体数にはセンターでの内部利用も含まれています。 |
| 委員 | この実績からも、センターが障害のある方のために一生懸命やっただけだと感じています。今年度の人材育成事業で、精神保健福祉ボランティアすばるのメンバーを新たに養成する講座は、すばるに参加する方を仕事につなげていくものですか。 |
| 事務局 (センター) | 新しいボランティアスタッフを養成するもので、スタッフの人数をもう少し増やしたいという声があったもので、養成講座は定期的開催しています。 |
| 委員 | 大学の地域貢献講座は名古屋商科大学等とありますが、他の大学も考えてこれから進めていくのでしょうか。 |
| 事務局 | 現在の実績は名古屋商科大学のみで、毎年、大学の集中講義にあわ |

| | |
|---------------|---|
| (センター) | せて声掛けいただき実施しています。また、別講座ですがケアマネジメント部会でも同大学の講義に出向いており、今後、対象の大学を広げていけたらと考えています。 |
| アドバイザー | 県から3月末時点のサービス等利用計画作成状況が出ていますが、日進市の障害児のセルフプランは47.3%あり、その理由と何か対応を考えているか教えてください。 |
| 事務局 (センター) | 理由としては、地域に1か所あった障害児の特定相談事業所が、平成28年度末で廃止されたことが大きな要因となっています。障害児の相談員が昨年度に比べて少なくなっており、現在、新たな相談員の募集を行っています。 |
| 委員 | 保育所等訪問支援事業は、保護者の希望で訪問しているとのことですが、保育所からの希望は対象とはなりません。第4期障害福祉計画の保育所等訪問支援の利用人数が、見込みと実績でかなりかけ離れており、見込み480名に対し実績19名で4%となっています。事業の目的に関連してくると思ったので教えてください。 |
| 事務局 (地域福祉) | 保育所等訪問支援は法定サービスであり、サービスを受ける子どもの保護者から申請があつて提供する支援となるため、実際としてはなかなか件数が増えています。 なお、学校から要望されるものは、巡回支援専門員による巡回支援相談があり、小中学校や保育所・幼稚園を巡回するものです。 |
| 委員 | 前年度に比べ相談件数が減っている理由を教えてください。 |
| 事務局 (センター) | 相談については、日々電話や訪問が多くある状況となっていますが、前年度からの減少理由としましては、サービス利用計画作成時などに相談に乗ることが多く、そもそもの計画作成件数が若干減っているので、その影響ではないかと考えています。 |
| 委員 | 人材育成事業の中で、肢体不自由ママ・パパのためのピアサポートしゃべり場は、サロンのような交流の場、大学での講義は啓発活動にあたると思います。また、事業計画のチャレンジド夏祭りは人材育成よりも場づくりだと思いますので、一度精査をお願いします。 |
| 事務局 (センター) | 持ち帰って検討します。 |
| 会長 | 7議事(3)日進市障害者自立支援協議会専門部会活動報告・今後の取組みについて説明を求める。 |
| 事務局 (センター) | ○ケアマネジメント部会 「障害福祉にかかわる人材育成と確保について」という大きなテーマの中で、①障害福祉分野に関心を高める取り組み、②介護保険事業所の障害福祉分野への参入の仕組みの検討、③地域生活拠点等の整備 |

という3つのテーマで毎月1回計12回部会を開催しました。

障害についての理解と関心を高めてもらおうと、愛知学院大学の学生に対し、市内事業所での現場体験と事業所内での障害者差別解消法の合理的配慮についての講義を行い、大変好評をいただきました。また、同様の講義を名古屋商科大学の集中講義でも実施しました。

地域生活支援拠点につきましては、障害のある方の親亡き後や地域移行を進めるために、障害者やその家族の緊急事態への対応を図ることを検討するもので、第5期障害福祉計画でも平成32年度までに体制整備を行うという目標になっています。

相談支援の個別事例から課題を抽出し、具体的な取り組みなどがまとまりましたら、本協議会で報告していきますので一緒に検討をお願いしたいと考えています。

次に、ヘルパー事業所で課題となっている訪問先の駐車場確保ですが、障害と高齢福祉の訪問事業所にアンケートをとり、現状を把握して検討を始めています。

今後の中心的な取り組みとしては、引き続き障害福祉について直接伝えることができる場を広げながら、専門職の人材育成・確保についての検討や、地域生活支援拠点の整備について現状から見える課題を挙げて実情に合った機能強化の検討を行っていきます。

○子ども部会

①学齢期の関係機関との連携、②市内での生活がより送りがよくなるために一般への啓発、③就労を見据えた学齢期からの支援という3つのテーマで、隔月1回計6回開催しました。

子どもにかかる通所系の事業所交流会を3回開催し、1回はセンター主催の発達支援セミナーとの共催で就労を見据えた事業所での支援や就労系サービスについての研修を行いました。

また、年度当初に実施した保護者、医師、歯科医師へのアンケート結果では、医療機関側からは「障害のあるお子さんの対応に困らないようあらかじめ障害についての情報提供をしてほしい」、保護者からは「受診の際の対応方法を伝えたい」という意見が多かったことから、地域医療機関への啓発として、本市独自の使いやすい受診サポートカードを作成することになりました。完成後は、周知を進めていきますが、本協議会でも紹介したいと考えています。

今後の取り組みとしては、一般保護者への啓発と学校等の関係機関との連携を進めるために、福祉実践教室の活用と特別支援コーディネーター研修会への協力や受診サポートカードの周知・啓発を進めてい

| | |
|-----|---|
| | <p>きます。</p> <p>○就労部会</p> <p>①就労を見据えた学齢期からの支援、②障害者雇用の促進をテーマに隔月 1 回計 6 回開催しました。</p> <p>昨年度の商工会を対象とした、障害がある方にお願ひできる仕事の有無についてのアンケート結果を基に、企業へのアプローチや平成 33 年度に目指す道の駅での障害者雇用を検討してきました。</p> <p>これまで部会として障害者雇用をお願ひする立場ばかり話してきましたが、実際に雇用されている会社を訪問し、そこで得た情報から雇用していない会社にメッセージを送れないか、あるいは雇用して困っていることがあれば、福祉的サポートができるといった情報を伝えられるのではということから、企業訪問で新たな検討を行っていくことになりました。</p> <p>今後の取り組みとしては、継続事業である保護者向け福祉的就労説明会と事業所見学バスツアーを実施し、障害のある方の就労支援の体制づくりを引き続き検討していきます。</p> <p>○権利擁護部会</p> <p>①障害者差別解消法の周知啓発、②災害時支援をテーマに隔月 1 回計 6 回部会を開催しました。</p> <p>障害者差別解消法の周知啓発として、昨年 12 月に市との共催で講演及び当事者との座談会を開催し、100 名の参加があり、有意義だったとの意見をいただきました。</p> <p>また、2 月には避難所での要援護者支援のためのサポートブックを活用した勉強会を開催し、約 50 名の参加がありました。避難所で安心して過ごせる方法を、当事者と一緒にグループで話し合い、何に配慮すべきか色々な意見をいただきましたので、意見やアンケート結果を市の防災担当に情報提供し、今後も引き続き市の防災訓練に協力してほしいと話をいただきました。</p> <p>その他、外見ではわからない障害や難病のある方が手助けを受けるきっかけとなる日進市ヘルプカードの検討も一緒に行いました。</p> <p>今後の取り組みとしては、災害時の要援護者サポートブックの周知、12 月の人権週間に合わせた障害者差別解消法等の講演会の開催、勉強会の開催、日進市ヘルプカードの周知・啓発を継続して行っていきたいと考えています。</p> |
| 会 長 | 質疑・意見を求める。 |

| | |
|---------------|---|
| 委員 | ケアマネジメント部会の取り組みで、市内の大学以外にも、市外の福祉関係を勉強している大学にも声掛けをしてはどうでしょうか。 |
| 事務局 (センター) | <p>現在、愛知学院大学の心身科学部の言語聴覚士コースのほか、養護教員等になる福祉的なコースに行かせていただいています。</p> <p>名古屋商科大学は集中講義という事で経理や商業を専攻する学生で、今後、雇用面やマネジメントにつながる可能性もあることから、毎年講義に出向いています。</p> <p>講義としては、この2大学しか行っていないので、ご意見のように今後は福祉関係の大学にも視点を持って行きたいと思います。</p> |
| 委員 | 人材育成と確保は、とても大きな枠なので、対象をもう少し狭めた方がよいと思います。 |
| 事務局 (センター) | 今後部会のほか、センター事業でもさらなる専門職向けの人材育成や勉強会を行っていきますので、部会と協力して進めて行きたいと思います。 |
| 会長 | <p>補足ですが、大学への働きかけという点について同朋大学でも日進市に住んでいる学生はいるので、事業所を直接見学し就職を考える際に検討いただくこともできる。</p> <p>県内の大学であれば日本福祉大学などの福祉の大学があるので、学生に対して事業所訪問をしませんか、というような企画をすると人材の確保につながっていくと思うので検討してみてください。</p> |
| 事務局 (センター) | 部会に持ち帰って、メンバーに報告させていただきます。 |
| 委員 | 子どもが入所施設にいます。人材育成と確保は、利用者の親も職員も常に考えています。事業所の人員募集も含め、市の広報などで掲載できないか提案させていただきます。 |
| 委員 | <p>権利擁護部会で障害者差別解消法の講演会やサポートブックを活用した勉強会など周知を広めていただけるのはいいと思います。</p> <p>今後の取り組みで、災害時要援護者サポートブックの周知と啓発がありますが、地域と障害のある方が関わる機会や関わる団体にサポートブックを知る機会があればと思います。</p> <p>福祉実践教室で、支援方法を子どもに話し、その子から保護者へと周知啓発が広がるといいと思います。</p> <p>危機管理課で災害時に向けた事業を実施すると聞いていますが、担当課以外の市の職員や大学生にも参加していただき、災害発生時に何をしたらよいか、サポートブックや障害の方の支援方法を知ってもらうのもいいと思います。協定も結んでいるので、できれば大学生にも協力してもらえらる仕組みがあるといいと思います。</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>また、ヘルプマークの配布も始まるので、サポートブックも併せて知っていただき、周知だけでなく活用までできたらいいと思います。</p> |
| 事務局 (センター) | <p>サポートブック勉強会のアンケート結果を危機管理課に報告した際、今年度も避難所設営訓練が地域で行われることを聞きました。</p> <p>自主防災会や関係機関でワークショップも行うことから、部会や障害のある方の参加についても話をいただきましたので、大学生の協力などと併せて、市と相談しながら部会で検討させていただきます。</p> |
| 委員 | <p>ヘルプカードは「あなたの支援が必要です」という方が持つもので、東郷町では「困っている方はお声をかけてください。お手伝いします」という、サポート側がつけて、困っている方が声をかけやすくなるカードがあります。ヘルプカードと表裏一体でサポートする側のカードも検討していただきたいと思います。</p> |
| 事務局 (センター) | <p>認知症サポーターのオレンジリングがありますが、障害のサポート面では広まっていませんので、部会で報告させていただきます。</p> |
| 会長 | <p>7 議題(4)第 4 期日進市障害福祉計画の評価(平成 29 年度実績)について説明を求める。</p> |
| 事務局 (介護福祉) | <p>今年度は第 4 期の最終年となる平成 29 年度分の実績評価を行うこととなります。評価の流れとしましては、初めに市において評価指標や活動指標の実績を調査し、分析して改善方法を記載した上で評価シートを整理し、最終的に市のホームページなどで公表する予定です。</p> <p>委員の皆さんには、市の分析評価案に対して、それぞれの立場からご意見や方策の提案をお願いしたいと思いますので、8 月 3 日までに介護福祉課までご提出いただき、提出意見を集約して次回の本協議会でご報告させていただく予定です。</p> |
| 会長 | <p>質疑・意見を求める。</p> |
| 委員 | <p>目標 2 の共同生活援助等の世話人養成講座は、介護保険単独の方に、障害のある方の特性を知ってもらいたいと思いますが、どのような研修会だったのでしょうか。</p> |
| 事務局 (地域福祉) | <p>人材育成や専門性の向上が目的で、平成 29 年度は専門性の向上を中心に、介護保険の訪問介護事業者に向けて、障害福祉サービスの具体的な支援の方法や精神障害の特性についての研修会を実施し、障害者への支援を広げていく研修を行いました。今後も人材育成や専門性の向上については、さまざまな切り口で検討を行っていきます。</p> |
| 委員 | <p>世話人と生活支援員という立場でグループホームの支援者を置かれていると思いますが、訪問介護事業所など外部型サービスの利用者に対しての支援は、世話人より生活支援員と思われそうですが、日進市でここに重点を置かれた理由は、日進市内での外部型サービス事業所の充</p> |

| | |
|---------------|---|
| | 実なのか、障害者理解を増やすという視点での実施なのでしょうか。 |
| 事務局 (地域福祉) | <p>地域生活支援拠点等の整備となりますので、幅広い支援体制の構築が必要だと考えています。</p> <p>グループホームを使った居室確保整備事業の強化に繋げていきたいため、世話人養成講座の開催を事業として挙げています。また、それ以外にも、日常生活の場の強化も必要なため、専門性の向上も併せて支援を行っています。</p> <p>どちらが大切という事ではありませんが、今後はグループホームの世話人養成講座で、特に夜間のニーズが高いと理解していますので、その人材発掘や育成に焦点を当てながら考えていきたいと思えます。</p> |
| 委員 | 理解者を増やしていくことは進めてほしい。グループホームを立ち上げる際、高齢の方のうち、まだ働ける方の協力で世話人になっていただいています。同じ方で毎日は難しいため、2、3時間でも可能な方を対象に、ニーズの合った講座をお願いしたいと思えます。 |
| 委員 | 目標4の社会資源の質的向上で、成果指標の共同生活援助や強度行動障害等の支援者養成研修の開催について、平成29年度は実施となっていますが、どの養成研修を開催したのか教えてください。 |
| 事務局 (地域福祉) | 特定の活動内容に向けた支援者養成ではなく、幅広い人材育成として、大学で障害者の理解促進の研修を実施したものです。 |
| 委員 | 地域の中では大学生以外にも、さまざまな年代の方で何かに役に立ちたい、働いてもいいと思っている方がみえると思えます。幅広い人材育成の中で、広報を使う等して掘り起こし、小さい子からお年寄りまでつなげていけるような取り組みをお願いしたいと思えます。 |
| 委員 | 親亡き後の問題や職員の問題など自分の施設の事はよく分かりますが、日進の中でどのくらいの方がグループホームを求めているのか、今困っているのかを協議会で把握すべきだと思えます。 |
| 事務局 (地域福祉) | アンケート結果もありますので、確認しながら検討できると思えます。 |
| 委員 | 啓発なのか人材育成なのかを考えながら、例えばサポーター養成から支援者育成までを連続した研修として、そこから資格取得や障害事業所での就労に向けた研修を行うなど、段階を踏める場があればよいと思えます。 |
| 事務局 (地域福祉) | ステップを踏んだ人材育成について、介護ではより簡単な資格をもって生活支援を行うことができる資格が創設されています。ご意見を参考に、ステップアップしながら学んでいく場の取り組みについても考えていければと思えます。 |
| 会長 | 8その他について説明を求める。 |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>事務局 (地域福祉)</p> | <p>①第3次障害者基本計画の策定に伴うアンケート調査について 本年1月から3月にかけてアンケート調査を実施し、現在取りまとめを行っておりますので、今後、障害者政策委員会で報告させていただくとともに、本協議会にも情報提示を行いたいと思っています。</p> <p>②ヘルプカードとヘルプマークについて ヘルプマークは「+(プラス)」と「ハートマーク」がデザインされており、愛知県下一斉の導入で、各市町村でも配布していきます。 本市では、7月20日より地域福祉課及び障害者福祉センターで配布予定をしており、併せて必要な支援を記入いただけるヘルプカードも配布いたします。なお、7月の広報にも掲載しています。</p> |
| <p>委員</p> | <p>ヘルプマークは数に限りがあるとなっておりますが、希望者全員に配布されますか。</p> |
| <p>事務局 (地域福祉)</p> | <p>当初の配布数に限りがあるためそのように掲載していますが、以降も継続的に配布できるよう考えていきます。一時的に足りなくなった場合を想定したものです。</p> |
| <p>会長</p> | <p>全体を通して質疑・意見を求めるもなく、閉会を宣す。</p> |